

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立保谷高等学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 教諭(教務部)=事務局長、経営企画室長、教務部1名 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当、生活指導担当、進路指導担当) 計6名
- (4) 協議委員の構成
有識者(成蹊大学名誉教授)、西東京市教育委員会教育企画課長
西東京市子育て支援子ども家庭支援センター長、地域代表
近隣中学校長、近隣小学校長、PTA会長、PTAOBOG会長 計8名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会
第1回 令和5年6月16日(金) 内部委員6名、協議委員7名(1名欠席)
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
第2回 令和5年11月10日(金) 内部委員6名、協議委員7名(1名欠席)
これまでの教育活動に関する報告、協議委員からの教育活動に対する意見
学校評価の内容検討、協議
第3回 令和6年3月4日(月) 内部委員6名、協議委員7名(2名欠席)
これまでの教育活動に関する報告、協議委員からの教育活動に対する意見
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議、次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会
第1回 令和5年11月10日(金) 内部委員3名、協議委員2名
学校評価の基本方針の確認、今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討
実施時期の検討、今年度の学校評価の実施に向けた検討
第2回 令和6年3月4日(月) 内部委員3名、協議委員2名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 対象：941人 回収：646人 回収率：68.7%
 - ・12月 保護者全員 対象：941人 回収：398人 回収率：42.3%
 - ・12月 地域・住民 対象： 回収：68人 回収率：—%
 - ・12月 教職員 対象：46人 回収：38人 回収率：78.3%
- (3) 主な評価項目
「学校運営に関すること」「学習指導に関すること」「生活指導に関すること」「部活動・特別活動(学校行事等)に関すること」「健康・安全に関すること」「施設・設備に関すること」
- (4) 評価結果の概要
 - ・Web方式にして2年目である。回答時期がインフルエンザ感染者の多く出た時期と重なり、回答率が低下した。無記名式で回答の追跡が難しく、昨年度との経年比較が難しい。また、Web方式のため、細かな点での記述が増え、とくに進路指導に対する要望が強い。
 - ・地域の対象を、昨年度までの近隣住民に代えて小中学校の教職員と最上級生の保護者に依頼したことにより、昨年同様、地域の回答数が大きく増加した。

- ・コロナ禍の制限も緩和され、学校行事が学校全体で実施できたことにより、特別活動などを中心に生徒、保護者はおおむね満足度は高くなっている。ただ行事後に感染者が多く出たことは来年度に向けての課題でもある。

(5) 評価結果の分析・考察

- ・下がっている項目に対して、学校全体で情報共有した上で生徒に呼びかけていく必要がある。
- ・生徒、保護者と教職員の意識に開き（教員の方が肯定的評価が高い）がある項目があり、改善すべき点と言える。
- ・自由記述で、三者面談、進路についての保護者説明会などの実施についての要望が多い。進路指導について保護者と情報共有をしながら進めていく必要がある。またごみ箱、トイレの清掃状況など施設に関する記述も多い。生活面での満足度を上げていく必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・保護者への連絡手段として Classi を活用することで保護者からは好評を得ている。
- ・生徒、保護者のアンケートの記述から、単語テストや英検など英語に関する本校の取組への満足度が高く、学習や大学進学に向けた進路指導の取組への要望が強いこと、また大学以外の進路指導への要望もあり、個に応じた進路指導への期待が認識できた。
- ・定期考査前の7時間目授業や長期休業中の講習への評価や期待が高い。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・保護者を交えた進路相談など学習や進路指導への期待が高い。
- ・授業が受け身になることが課題。主体性を育て、自ら学習する姿勢が必要である。
- ・進路に対する不安が大きい。不安が解消されるような情報発信と進学実績の向上に向けた更なる取り組みが必要である。
- ・学校行事を活発にし、部活動なども含め生徒の成功体験を増やし、達成感のある体験をさせる。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・生徒と保護者との感覚のずれがあり、保護者の満足度は高いが生徒はそれほどでもない。生徒の満足度を上げるよう、学校運営の改善の必要がある。

(2) 学習指導

- ・教員の感覚ほどに生徒、保護者は満足しておらず、さらに授業改善の必要がある。

(3) 生活指導

- ・SNSの使い方に課題がある。学校と保護者がもっと協力する必要がある。

(4) 進路指導

- ・教員の感覚ほどに生徒、生徒保護者は満足しておらず、より丁寧な進路指導が求められている。

(5) 部活動、特別活動

- ・概ね良好な状況である。生徒主体の活動として、さらに充実していくとよい。

(6) 健康・安全

- ・自転車通学の生徒が多く、継続して交通ルールを守る意識を高める必要がある。

(7) 施設・設備

- ・破損している校内表示を整備した方がよい。

6 その他

- ・昨年度より生徒、保護者のアンケート回収率が低下したため、アンケートの周知方法を検討する必要がある。
- ・コロナも収束したことから、地域の方に学校の教育活動を理解してもらうために、地域ボランティアへの参加、交流、授業公開の機会などを増やしていく。